

地域の文化財を活用した鑑賞教材開発の予備的考察
大学生を対象として

蝦名敦子

棟方志功と縄文について開発した鑑賞教材を、教員を目指す大学生(弘前大学小専図画工
作教育法受講者 125 名)を対象に授業実践をする。教材設定の有効性を実践的に検証。鑑
賞体験をめぐる所感から、最も関心を集める内容を分析し、小・中学校で実現可能な鑑賞
授業のアウトラインを求めた。個々の作品のみならず、肉体的なハンディ、「華狩頌」の
コンセプト、時代を超えた造形の共通点、「自然や生活と美術の深い関わり」、作家の芸術観
に多く共感が得られた。